

番号	11	令和4年度公共事業再評価調書				担当課名	河川海岸整備課
事業名	かせんかいしゅうじぎょう 河川改修事業			事業主体	静岡県		
箇所名	いっきゅうかせんこうるいがわ 一級河川小潤井川			関係市町	富士市		
事業採択年度	平成 24 年度	計画期間		平成24年度 ~令和13年度			
用地着手年度	平成 28 年度	工事着手年度		平成 29 年度			
再評価理由※	再評価実施(H29)後5年間が経過した時点で継続中						
全体事業費	百万円 3,384	投資状況 (百万円)	~R2年度 995	R3年度 250	R4年度見込 300	計 1,545	
事業概要	<p>(1)事業目的 当該地区は、整備計画区間である津田橋~鬼門橋において、河道断面が狭小になっており、洪水を安全に流下させることが困難な状況である。このため、同区間の河道改修を実施し、流下能力を向上させることで、10年に1回程度発生すると想定される規模の洪水に対応できる河川改修を行い、浸水被害の軽減を図る。</p> <p>(2)事業内容 河川改修：延長 2,000m（護岸工、掘削工） 落差工 2箇所、橋梁工 13橋、取水施設 3か所</p>						
事業の必要性等	<p>【視点1】</p> <p>(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化 近年、気候変動に伴う豪雨の激甚化、頻発化により全国各地で甚大な被害が発生している。こうした水災害リスクの高まりから、流域のあらゆる関係者の参画によって、流域全体で被害を軽減させる「流域治水」に取り組む重要性が国から示され、県内でも「流域治水」の考え方に基づく取組みを推進している。</p> <p>(2)事業の投資効果 ○現時点（R4）での費用便益分析結果：B/C=21.1、EIRR=89.9% ・総便益（B） 331.85億円 ・総費用（C） 15.71億円 ○見込まれる効果 ・10年に1回程度発生すると想定される規模の降雨による浸水被害の解消</p> <p>(3)事業の進捗状況（令和4年度末見込み） 【事業費】 45.7%（1,545百万円/3,384百万円） 【用地費】 23.7%（135百万円/569百万円） 【事業量】 6.0%（120m/2,000m） 令和2年度末に津田橋（小潤井川2.0k付近）の架け替えが完了し、津田橋から上流120mの河道改修と柳田橋の架け替えを実施している。今後も河川改修に伴う取水施設の改修や橋梁架け替えがあることから、計画的な調査設計及び関係機関との調整を進めていくとともに、地元調整綿密に行い、確実な事業進捗を図っていく。</p> <p>評価 <input checked="" type="radio"/> 継続が妥当 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない</p>						
今後の事業の進捗の見込み	<p>【視点2】</p> <p>令和5年度までに柳田橋の架け替えを実施し、引き続き、上流の河川改修を実施する予定であり、地元の早期完成への期待も大きく、今後も事業は順調に進捗していく見込みである。</p> <p>評価 <input checked="" type="radio"/> 継続が妥当 視点3による見直し後継続が妥当 ・ 継続は妥当ではない</p>						
新たなコスト削減・代替案立案等の可能性	<p>【視点3】</p> <p>(コスト削減について) 掘削による発生土を他事業に流用し、コスト削減を図る。</p>						
対応方針(案)	<p>(1)対応方針(案) 本事業を（ <input checked="" type="radio"/> 継続 ） ・ 見直し後継続 ・ 中止 ）する。</p> <p>(2)理由 本事業は、河川改修により小潤井川流域の家屋浸水被害を軽減するものである。当地域では、近年、激甚化・頻発化する豪雨を受け、過去に浸水被害が発生していることから、地元の治水安全度向上への期待が大きく、事業の投資効果も見込まれ、関係機関との調整が順調など、今後の事業の進捗が見込めることから事業を継続する。</p>						

費用便益比算出説明書

一級河川小潤井川

(「治水経済調査マニュアル(案)」国土交通省 水管理・国土保全局 令和2年4月)

総括表

総便益 B	[治水事業を実施しない場合の被害額]－[治水事業を実施した場合の被害額] +[施設の残存価値]	33,185百万円
総費用 C	[建設費]+[評価期間内に必要な維持管理費]	1,571百万円
B / C		21.12

総便益

○治水事業の有無による被害額の差分
年平均被害軽減期待額を社会的割引率4%、評価対象期間59年(整備期間9年+50年)とし、
現在価値化する。

○施設等の残存価値
評価期間末における施設等の残存価値を社会的割引率4%で現在価値化する。

総便益

$$\begin{aligned}
 B &= \Sigma \text{年平均被害軽減期待額} / (1+0.04)^n + \text{評価期間末残存価値} / (1+0.04)^n \\
 &= 33,104 \text{百万円} + 81 \text{百万円} \\
 &= 33,185 \text{百万円}
 \end{aligned}$$

※ 被害額は洪水による家屋、事業所、農作物、公共土木施設などの被害額と営業停止損失、家庭・事業所における応急対策費用である。

※ 年平均被害軽減期待額は洪水の生起確率を生起確率別被害軽減額に乘じ、計画対象規模まで累計することにより算出する。

※ 整備期間中の便益は、事業費に比例して発生するものとする。

総費用

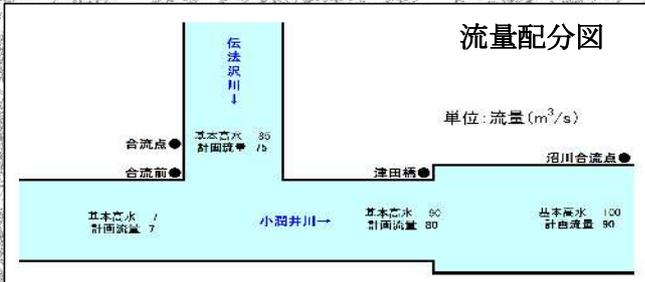
○事業建設費
各年の事業建設費を社会的割引率4%で現在価値化する。

○評価期間内に必要な維持管理費
各年の維持管理費を社会的割引率4%で現在価値化する。
建設費の0.5%/年、評価対象期間:59年

総費用

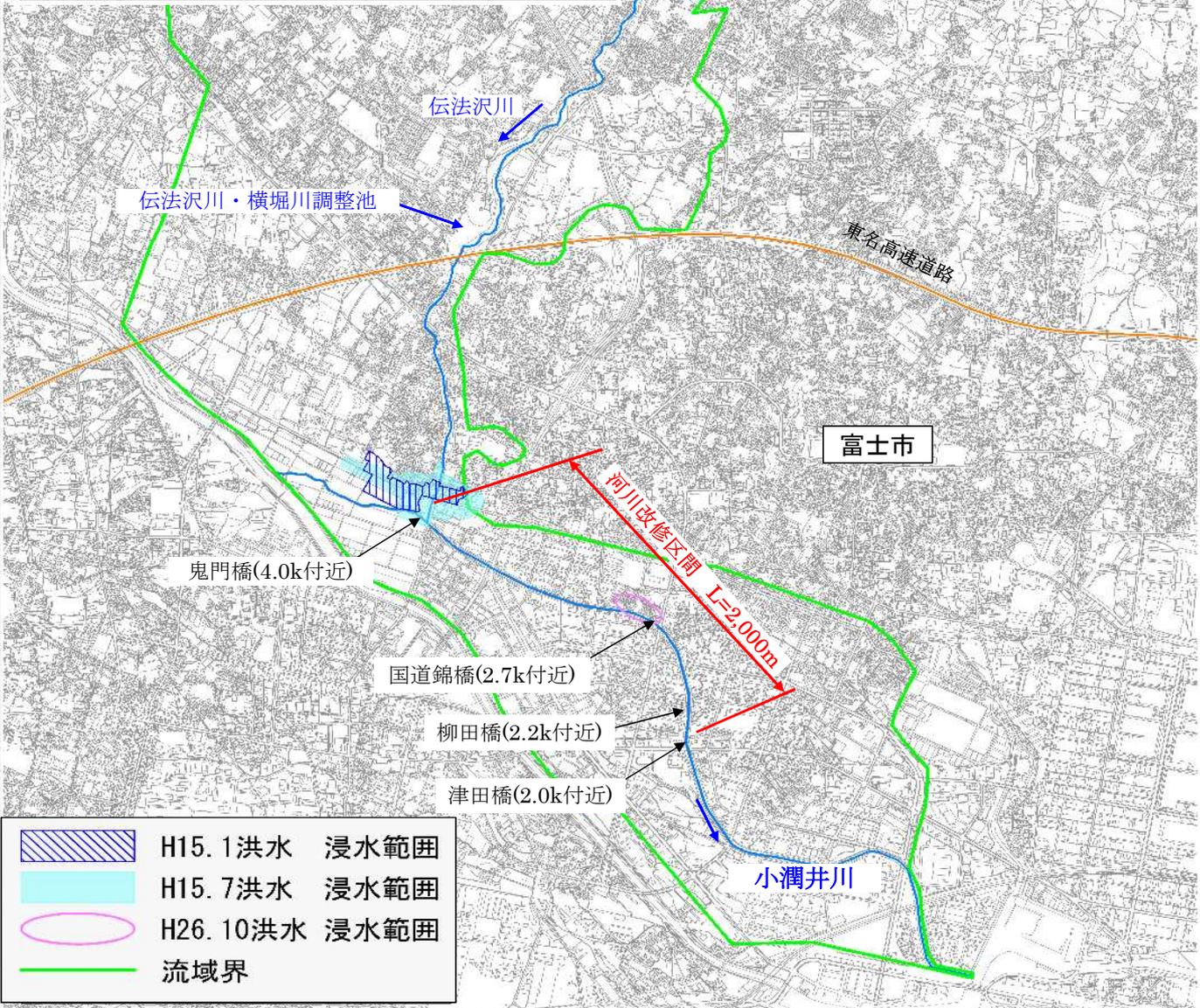
$$\begin{aligned}
 C &= \Sigma \text{各年事業建設費} / (1+0.04)^n + \Sigma \text{年間維持管理費} / (1+0.04)^n \\
 &= 1,383 \text{百万円} + 188 \text{百万円} \\
 &= 1,571 \text{百万円}
 \end{aligned}$$

小潤井川 位置図



近年の浸水実績

発生日月	H15.1.27	H15.7.4	H26.10.6	
床上浸水	2戸	1戸	0戸	
床下浸水	5戸	31戸	3戸	
雨量観測所	石坂	富士	石坂	富士
1時間雨量	48.0mm	62.0mm	67.0mm	70.0mm
3時間雨量	72.0mm	160.0mm	129.0mm	145.0mm
24時間雨量	121.0mm	186.0mm	312.0mm	362.0mm
確率規模	1/3	1/10	1/20	1/25

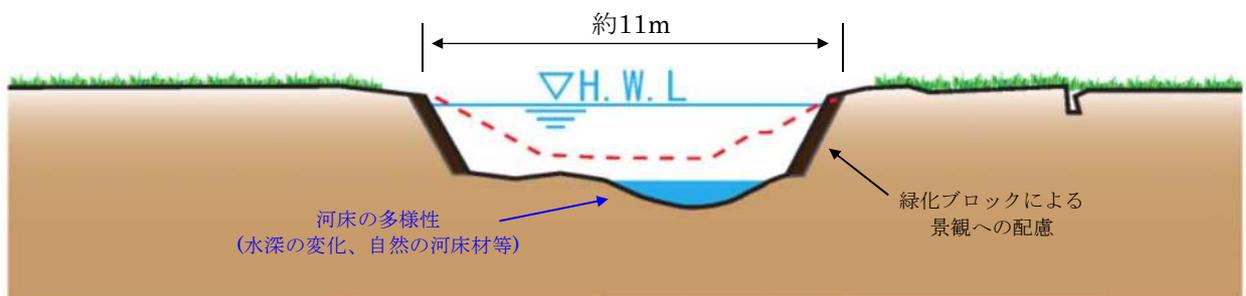


概略平面図



標準横断面図

【小潤井川3.5k付近】



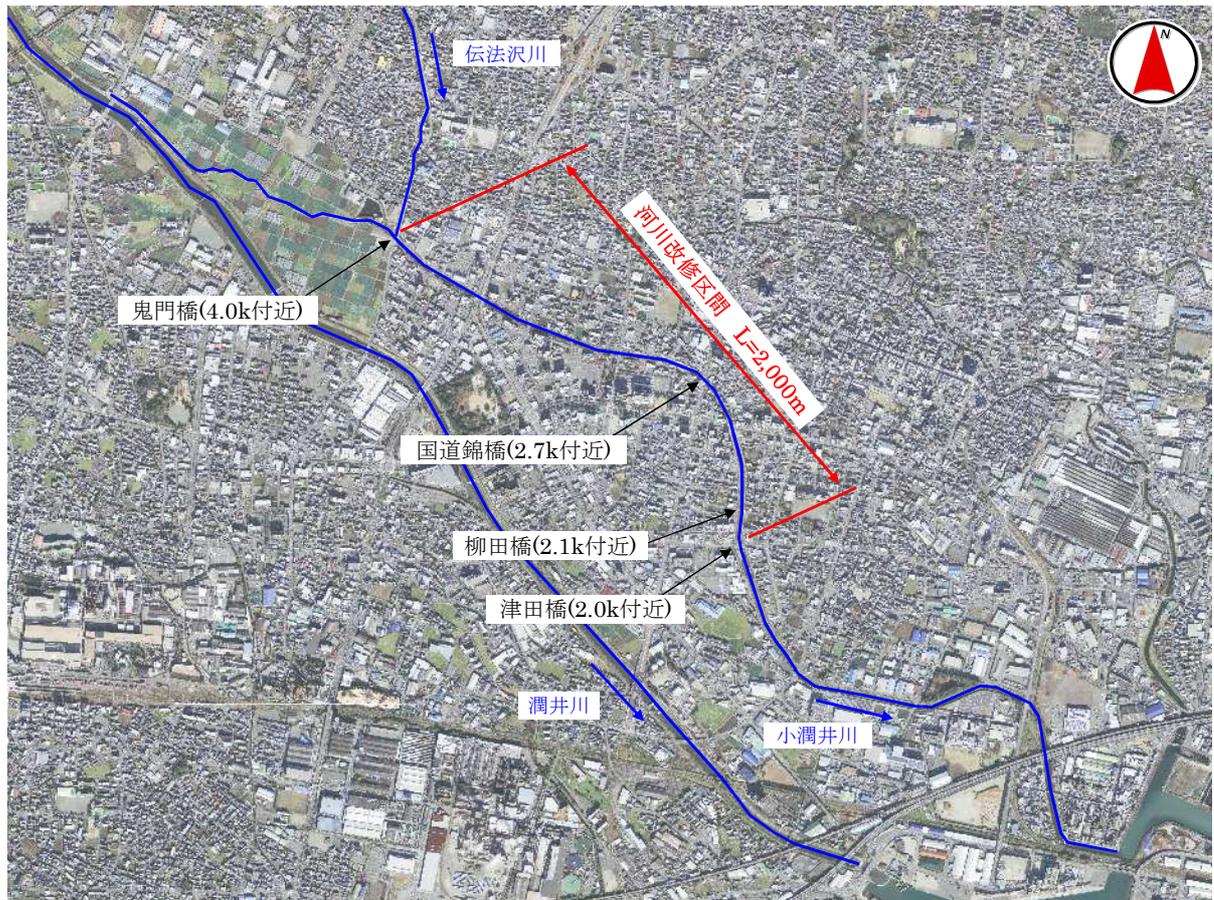
【整備計画区間(2.7k付近：国道錦橋)】



【整備計画区間(3.2k付近)】



航空写真



浸水被害の状況



①H15.7洪水浸水状況(伝法沢川右岸)



②H26.10洪水浸水状況(国道錦橋周辺)



③H26.10洪水浸水状況(永田北町)

改修区間の状況



未改修区間の状況

